

戦後の看護教科書

1. 連合国占領期における看護教科書

終戦後、連合総司令部 (GHQ) の指導のもと、看護教育のモデルスクールとして 1946 年に東京看護教育模範学院が設立された。最初は教科書がなく聖路加女子専門学校の教本とアメリカの教科書を参考にノート筆記とプリントによる授業であったが、これらをまとめ 1947 年に「看護実習教本」がメヂカルフレンド社より発刊され、全国的に看護学校で使用されるようになった¹⁾。

2. 看護教育カリキュラムの規定と更新

保健婦助産婦看護婦令の交付後、1949 年に保健婦助産婦看護婦養成所指定規則として看護教育カリキュラムが規定された。1967 年には保健婦助産婦看護婦養成所指定規則が 20 年ぶりに改定、それに伴いカリキュラムも大幅に更新され、看護学は「看護学総論」「成人看護学」「母性看護学」「小児看護学」の 4 系統に体系化された。それまで主に診療科別に発行されていた教科書もカリキュラムに沿った臓器・系統別で発行されるようになった。

1968 年に刊行が開始された『系統看護学講座』は、その後もカリキュラムの改定に対応し、改訂・増巻しながら現在も刊行されている。

巻構成の変化（看護学を抜粋）

■カリキュラム改定前

高等看護学講座 全 30 巻 / 医学書院 (1966 年)

(1～13 巻省略)	:
14 巻 看護史	
15 巻 看護倫理	
16 巻 職業的調整	
17 巻 看護原理	
18 巻 内科学・伝染病学・内科看護法・伝染病看護法	
19 巻 結核病学・結核看護法	
20 巻 小児科学・小児科看護法	
21 巻 外科学・外科看護法・外科的救急処置	
22 巻 手術室看護	
23 巻 整形外科学・整形外科看護法・理学療法・放射線医学	
24 巻 婦人科学・産科学・産婦人科看護法	
25 巻 精神医学・精神科看護法・精神衛生	
26 巻 眼科学・耳鼻咽喉科学・歯科学	
27 巻 皮膚科学・泌尿器科学	
28 巻 臨床検査	
29 巻 看護管理	
30 巻 病院管理	

■カリキュラム改定後

系統看護学講座 全 18 巻 / 医学書院 (1968 年)

(1～11 巻省略)	:
10 巻 看護学総論	
11 巻 成人看護学Ⅰ	成人看護学総論
12 巻 成人看護学Ⅱ	内科 - 外科的看護 1
13 巻 成人看護学Ⅲ	内科 - 外科的看護 2
14 巻 成人看護学Ⅳ	整形外科看護
15 巻 成人看護学Ⅴ	眼・口腔・耳鼻咽喉科看護
16 巻 成人看護学Ⅵ	精神科看護
17 巻 小児看護学	
18 巻 母性看護学	

